



発行番号：第10A2458号
発行日：平成22年11月30日

品質性能試験報告書

依頼者

株式会社 カ ナ イ

埼玉県八潮市西袋717-1

試験名称 木造住宅用基礎に使用されるアンカーボルト「フィストアンカーボルト50」の

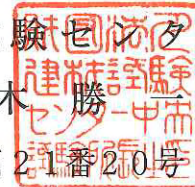
引張試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

財団法人 建材試験

中央試験所長 黒木

埼玉県草加市稻荷5丁目21番210号



品質性能試験報告書

試験名称	木造住宅用基礎に使用されるアンカーボルト「フィストアンカーボルト50」の引張試験							
依頼者	株式会社 カナイ							
試験体	試験体記号	アンカーボルト			木造住宅用基礎		数量	
	M16-800	寸法：全長：800mm 埋め込み深さ：360mm ねじ部：M16 軸部：φ14.6mm			寸法：150mm×500mm×3400mm コンクリート：呼び強度：24 N/mm ²		3	
	(注) 1. 記載内容は、依頼者提出資料による。 2. 木造住宅用基礎は、基礎の立ち上がり部分（以下、基礎相当材という）を対象とした。 参照：図-1（試験体） 表-1（コンクリートの配合及び圧縮強度試験結果） 表-2（アンカーボルトの引張強度試験結果）							
試験方法	<p>概要：基礎相当材上面に埋め込まれたアンカーボルトにカプラー及び加力用鋼棒を取り付け、反力台、ジャッキ、球座及びロードセルを介して引張荷重を連続的に加えた。</p> <p>加力装置：センターホール型油圧ジャッキ センターホール型ロードセル（容量；200kN，非直線性；0.5%R0，ヒステリシス；0.5%R0）</p> <p>測定装置：電気式変位計（容量；50mm，感度；200×10⁻⁶/mm，非直線性；0.1%R0） データロガー</p> <p>参照：図-2（試験方法）</p>							
試験結果	試験体		基礎相当材上面のひび割れ発生時		最大荷重時		破壊状況	基礎相当材のコンクリート圧縮強度 N/mm ²
	記号	番号	荷重 (P) kN	変位 (δ) mm	荷重 (Pmax) kN	変位 (δmax) mm		
	M16-800	1	42.1	0.9	82.8	5.4	基礎相当材の側面割れを伴うアンカーボルトの引き抜け	22.9 (表-1)
		2	57.4	1.5	92.8	6.2	基礎相当材の側面割れを伴うアンカーボルトの引き抜け	
		3	52.4	1.1	88.3	6.1	基礎相当材の側面割れを伴うアンカーボルトの引き抜け	
平均	50.6	1.2	88.0	5.9	—	—		
参照：図-3（荷重-変位曲線） 写真-1～写真-3（破壊状況）								
試験期間	平成22年11月 4日							
担当者	構造グループ 統括リーダー 高橋 仁 試験責任者 守屋 嘉晃 試験実施者 森田 薫, 守屋 嘉晃							
試験場所	中央試験所							



発行番号：第16A1210号
発行日：平成28年7月29日

品質性能試験報告書

依頼者 株式会社 カ ナ イ

埼玉県八潮市西袋717-1

試験名称 木造住宅用基礎に使用するアンカーボルト「高耐力50フィストアンカーボルトM16×800」

の引張試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

一般財団法人 建材試験センター
中央試験所長 川 上 修
埼玉県草加市稲荷5丁目21番20号



品質性能試験報告書

試験名称	木造住宅用基礎に使用するアンカーボルト「高耐力50フィストアンカーボルトM16×800」の引張試験							
依頼者	株式会社カナイ							
試験体 (依頼者 提出資料)	試験体 記号	アンカーボルト			木造住宅用基礎		数量	
	A	寸法：全長；800 mm 埋め込み深さ；360 mm ねじ部；M16 軸部；φ14.6 mm			寸法：150 mm×400 mm×3000 mm コンクリート：普通 21 18 20 N (JIS A 5308) 鉄筋：主筋；D13 SD295A (JIS G 3112) ；D10 SD295A (JIS G 3112) せん断補強筋；D10 SD295A		3	
<p>(注) 1. 木造住宅用基礎は、基礎の立ち上がり部分（以下、基礎相当材という）を対象とした。 2. 試験は、基礎相当材のコンクリート圧縮強度が 21 N/mm²±10%の範囲内で行うようにした。</p> <p>参 照：図1（試験体）、表1（コンクリートの圧縮強度試験結果及び配合）、 表2（鉄筋の引張試験結果）、図2（鉄筋の応力-ひずみ曲線）</p>								
試験方法	<p>概 要：基礎相当材上面に埋め込まれたアンカーボルトにカプラー及び加力用棒鋼を取付け、反力台、ジャッキ、球座及びロードセルを介して引張荷重を連続的に加えた。また、ひび割れ等の試験体の破壊状況を目視により確認した。</p> <p>加力装置：センターホール型油圧ジャッキ（揚量；326 kN）及びセンターホール型ロードセル（容量；200 kN、非直線性；0.5%RO、ヒステリシス；0.5%RO）</p> <p>測定装置：電気式変位計（容量；50 mm、感度 200×10⁻⁶/mm、非直線性；0.1%RO）及びデータロガー</p> <p>参 照：図3（試験方法）</p>							
試験結果	試験体		基礎相当材 上面及び側面 のひび割れ 発生時		最大荷重時		破壊状況	基礎相当材の コンクリート 圧縮強度 (N/mm ²)
	記号	番号	荷重 P (kN)	変位 δ (mm)	荷重 P (kN)	変位 δ (mm)		
	A	1	57.4	1.7	98.6	11.5	先端の位置でコンクリートの割れを伴うアンカーボルトの引き抜け	20.6
		2	70.2	2.9	99.1	10.6	先端の位置でコンクリートの割れを伴うアンカーボルトの引き抜け	
		3	55.3	1.8	104.8	16.9	先端の位置でコンクリートの割れを伴うアンカーボルトの引き抜け	
平均		61.0	2.1	100.8	13.0	—		
参 照：図4及び図5（荷重-変位曲線）、写真1～写真3（破壊状況）								
試験期間	平成28年 7月 1日							
担当者	構造グループ 統括リーダー 室 星 啓 和 統括リーダー代理 上山 耕 平 高橋 慶 太 大西 智 哲（主担当） 数納 宣 吾 佐山 諒							
試験場所	中央試験所							